

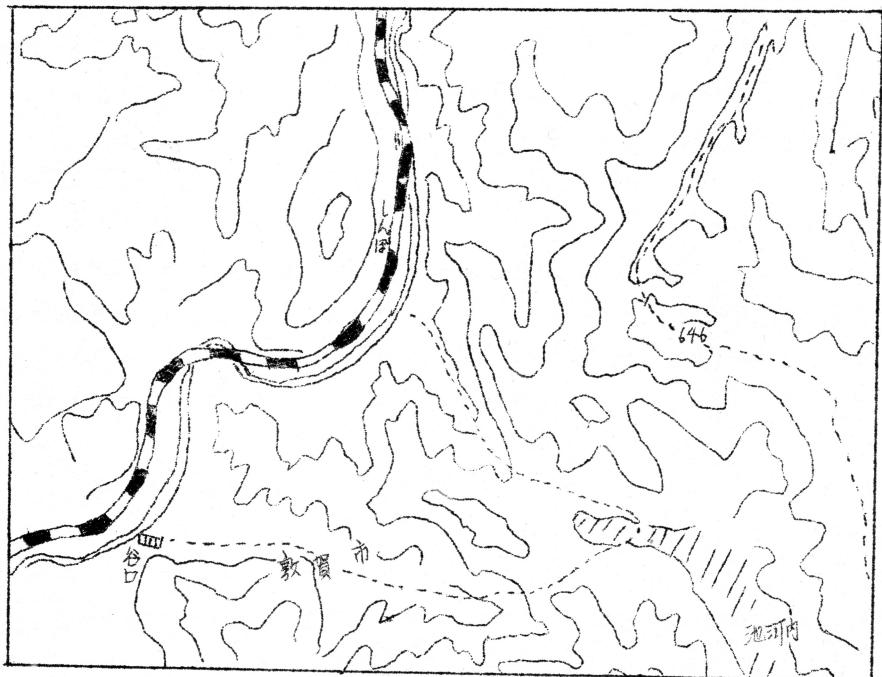
池河内、大払寺山採集記

昭和36年8月25日 日本植物分類地理学会の採集会に参加した五十数名と、敦賀市役所觀光課長、地元の有志を乗せたバスは午前8時に敦賀駅を出発して谷口に向かつた。

谷口に下車した一行は、先ず北村教授の挨拶を聞きすぐ採集にかかつた。

谷川にそつた路の横には、ホタルブクロ、マユミ、ケヤキ、ニガキ、クヌギ、ユキツバキ、ヤブツバキ、オニグルミ、ヌルデ、ヤブデマリ、コアジサイ、コクサギ、ズミなどの木本があり、

その樹陰とか湿地では、チヤルメルソウ、コチヤルメルソウ、ミカエリソウ、イワデンダ、イヌワラビ、イヌシダ、サトメシダ、リヨウメンシダ、クマワラビ、クジヤクシダ、イノデ、サカゲイノデ、オニヒカゲワラビ、オオバノイノモトソウ、ヒメカナワラビ、ホシダ、ウラボシノコギリシダ、ヤワラシダ、ヤマヤブソテツ、ヤブソテツ、ベニシダ、オオイタチシダ、イタチシダ、イワガネソウ、シケンダ、ミゾシダ、コバノヒノキシダ、オニヒカゲワラビ、バイカウツギ、マルバススピトハギ、イヌアワ、アカソ、ガガイモ等の草本や羊歯がよく繁茂していた。谷川を離れ、峠道を登ると、ダンコウバイ、クマイチゴ、シラキ、ハナイカダ、アブラギリ、ハゼ、イヌ

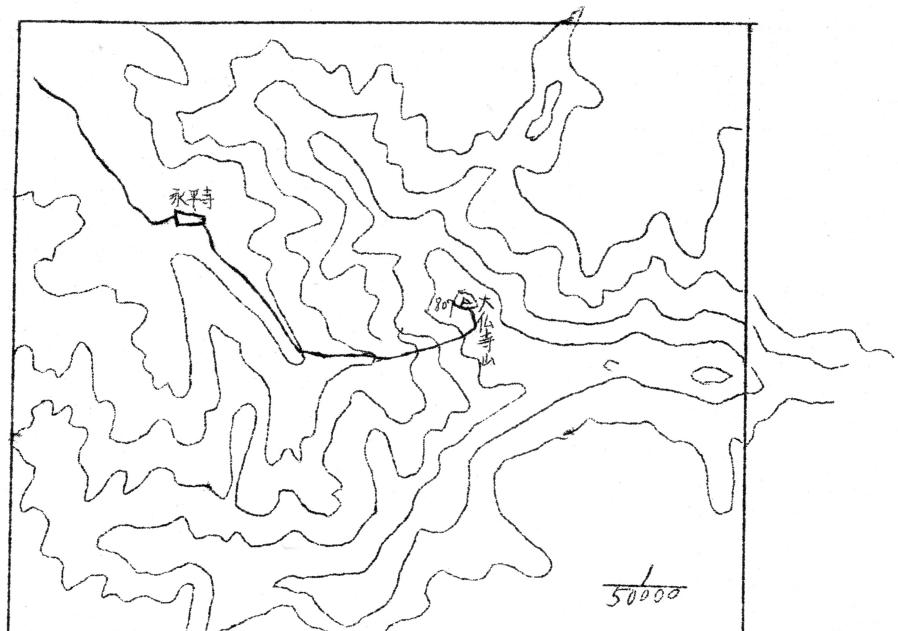


1
50000

(採)

シデ、アカシデ、クマシデ、ツノハシバミ、ノリウツギ、カラスザンショウ、サンショウウ、エゴノキ、サワフタギ、マユミ、コマユミ、ミズナラ、コナラ、クヌギ、イヌガヤ、チヤボガヤ、オオバクロモジ、アズキナシ、マルバマンサク、シロダモ、ヤマコウバン、マツブサ、ウリハダカエデ等の木本、ヒヨクソウ、ミズタビラコ、ミヤマイタチシダ、オニカナワラビ、イヌトウバナ、ヤマクルマバナ、ミヤマトウバナ、ホソバイヌワラビ、リョウメンシダ、サカゲイノデ等の草木、羊歯があり、岐から池河内部落下る途中には、ナナカマド、キンキマメザクラ、ナンキンナナカマド、ダンコウバイ、サワフタギ、ヒサカキ、マルバマンサク、ヤマモミジ、コハウチワカエデ、オオカマツカ、ケカマツカ、アクシバ、カクミノスノキ、ホツツジ、ネジキ、ムシカリ、ノリウツギ、ヘビネコザ等があつた。湿地の近くまでくると、部落の人たちが冷したお茶を持つて我々一行を出迎えてくれたので全員感謝して口をうるおし、ここで昼食にした。

湿地の中では、主に、エゾシロネ、ミズオトギリ、オオニガナ、カンガレイ、ミヤコイバラ、ミズギボウシ、カキラン、イヌノハナヒゲ、コマツカサススキ、ヤチスギラン、ミズドクサ、ヒメシロネ、コシロネ、イワハリガネワラビ、ノハナショウブ、ミツガシワ、コウホネ、サワラン、ショウブ、ヤナギトラノオ、オオバノヤエムグラ、オヒルムシロ、ドクゼリ、フトイ、カキツバタ、カサスグ、ウキヤガラ、オニナルコスグ、ミミカキクザ、ムラサキミミカキグサ、トネリコ、ハンノキ、ウツギ、イボタノキ、ケナシヤブデマリ、ヒヨドリバナ、等の植物が採集された。



(採)

池洞内から新保駅にかけて、タニヘゴ、スギナ、ズミ、ヤマナシ、オオネバリタデ、ヤマボウシ、ミヤマガマズミ、コバノガマズミ、コナラ、シナノガキ、ヒロハイヌワラビ、オオサトメシダ、サトメシダ、ヤマイヌワラビ、イノデ、マルバハギ、ホクリクネコノメソウ、ユクノキ等を採集し、新保駅からすぐ永平寺へと向かい寺で一泊した。

明けて26日、午前8時に眼い目をこすりながら山門前に集合し、田川助教授から採集会解散の挨拶の後、大部分の人は、大仏寺山の植物採集に向かつた。

永平寺付近では、ハクウンボク、ヤマコウバン、ケナシヤブマリ、コハナヤスリ、エゾフユノハナワラビ、イワヘゴ、ビツチユウヒカゲワラビ、オオイタチシダ、ミヤマタゴボウを見つけ、谷川にそつて登つて行くと、オニヒカゲワラビ、フモトシダ、クジヤクシダ、オオバノハチジョウシダ、イヌワラビ、シケンシダ、ミヅシダ、シケチシダ（従来のハコネシケチシダがシケチシダである。）ホソバイヌワラビ、サカゲイノデ、イノデ、ハリガネワラビ、ヒメワラビ、ヤマイヌワラビ、カラクサイヌワラビ、リヨウメンシダ、クサソテツ、イヌガンソク、トラノオシダ、チヤセンシダ、ジユウモンジシダ、ヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、ナライシダ、ベニシダ、クマワラビ、ヤワラシダ、サトメシダ、オオヒメワラビ、シンガシラ、ワラビ等の羊歯がよく繁茂していた。

大仏寺山登り口からブナ林下の清川までには、シラネセンキユウ、ヌリワラビ、ツリフネソウ、ヒメレンゲ、ミヤマイラクサ、ミヤマハハソ、マタタビ、ガガイモ、メハジキ、シシウド、ケナシミヤマシシウド、マタタビ、ハイヌガヤ、チヤボガヤ、ハクホウイノデ、クジヤクシダ、ジユウモンジシダ、コマユミ、イボタノキ、ミヤマイボタ、エゾイボタ、ミヤマフユイチゴ、オオツヅラフジ、イガホウズキ、ミヤマベニシダ、アキギリ、ミヤマトウバナ、ヤマクルマバナ、イヌトウバナ、ヤマホロシ、ユウガギク、シロヨメナ、ミズヒキ、ミズキ、キンミズヒキ、ハシカグサ、ヤマヨモギ、チドリノキ、ヤマシジノホトトギス、ヤブハギ、ゲンノショウコ、ツルニンジン、ヌルデ、ソバナ、カガノアザミ、ウチワドコロ、カエデドコロ、メハジキ、ウツボグサ、ミヤマニガウリがあり、これを採集した。清水の所で小休止を取り、頂上をめざして再び登つた。途中、オオカニコウモリ、ブナ、テツカエデ、ヒメキンミズヒキ、オオツルウメモドキ、クルマムグラ、マルバフユイチゴ、オシダ、サラシナシヨウマ、ヒメモチ、ツルシキミ、ブナ、ミズナラ、タムシバ、カクミノスノキ、アクシバ、リヨウブ、エゾユズリハ、ミヤマシグレ、アカミノイヌツゲ、ハウチワカエデ、ナナカマドを採集して、帰りは、先の清水の所で昼食をし、標本を整理して解散した。

二日間の採集で注意すべき植物

- 1 *Lycopus uniflorus* MICHX. エゾシロネ

三の峠の刈込の池と池洞内の二ヶ所である。

- 2 *Rosa Luciae* FRANCH. et ROCH. var. *paniculata* MAKINO. ミヤコイバラ
本県初記録

- 3 *Sceptridium multifidum* NISIDA var. *robustum* NISIDA
エゾフユノハナワラビ
本県初記録
- 4 *Agrimonia pilosa* LEDEB. var. *nipponica* KITAM.
ヒメキンミズヒキ
本県初記録で、大仏寺と三里山で採集
- 5 *Angelica pubescens*. MAXIM. form. *glabra* MURATA
ケナシミヤマシンウド
シシウドの葉の裏に毛のない型
本県初記録
- 6 *Diplazium bittyuense* TAGAWA ピツチユウヒカゲワラビ
本種は昭和8年に田代善太郎氏が永平寺で採集された後、約30年間そのゆくえが判明しなかつたのであるが、今回見事に再発見された。
- 7 *Dioscorea nipponica* MAKINO ウチワドコロ
本州(北、中部)北海道に分布するものである。
本県初記録

渉 迂 定 路 記

平 等 一 厨 峠 採 集 記

昭和36年10月15日 福井発7時27分発織田行電車にて、竹内、林、高橋氏らと一緒に乗りこみ、水落で堀館長、寒峰先生と合流して、橋停留所で下車して秋晴れの中を厨峠めざして前進した。停留所から平等部落にかけて、イヌコウジユ、ヒメジソ、キツノゴマ、アシボソ、チヂミザサ、コブナグサ、チガヤ、スズメノヒエ、チカラシバ、カゼクサ、ススキ、エノコログサ、アメリカセンダンソウ、カヤツリグサ、コゴメガヤツリ、コメナモシ、ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク、ヨモギ、メドハギ、ヤハズソウ、イノコズチ、ヌスピトハギ、キンミズヒキ、シケシダ、イヌタデ、サクラタデ、アキノウナギツカミ、ミゾソバ、トゲソバ、ナワシロイチゴ、織田中学の前方の小さい溜池では、ノタヌキモ、オヒルムシロを採集した。

平等の神社から峠までの間では、シケシダ、イヌワラビ、ヤマイヌワラビ、ヒメワラビ、イノデを採集しながら道の横の小さい谷間にいいると、オオニガナが一株と、カラクサイイヌワラビ、カラタニイヌワラビ(タニイヌワラビ×カラクサイイヌワラビ、若須岳と合わせて産地は2ヶ所になつた)が目に入つた。この珍品にありつき喜び勇んで、更に前進すると、イタチシダ、ホラシ